

広報

中部の森林

Good Wood
Workers

詳しくは
こちら



写真
募集中!

令和4年12月23日

林業従事者写真コンテスト

撮影は安全第一で

写真：乗鞍の権現池と遠くに見える白山連峰 中信署・飛騨署管内
(中信署(乗鞍グリーン・サポート・スタッフ)提供)

私の森語り「命を活用し 皮革製品に」
株式会社メルセン 代表取締役 中川 武人

特集

- ・高山植物等保護パトロール

各地からの便り

- ・鳥獣保護及び狩猟に関する講習会の開催など

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業、国有林モニターのご紹介



林野庁中部森林管理局



2022/No.222



立山地区のパトロールエリア（雷鳥沢キャンプ場方面）

五十年目の節目となる 高山植物等保護パトロール

【富山森林管理署】

七月二十日から始まった北アルプスの高山植物等保護パトロールは、八月十九日の解団式をもって、今年度も無事に終了しました。

このパトロールは、昭和四十六年七月に「立山地区国有林野保護管理協議会」が設立されたのを機に昭和四十七年から始まり、その後、「葉師岳・雲ノ平地区」「黒部地区」「白馬・朝日・北又地区」の三地区の国有林野保護管理協議会が順次設立され、これまで地道な活動を積み重ね、立山地区のパトロールは、五十年の節目を迎えました。

各協議会は、それぞれ地元自治体、関係団体、山小屋等で組織されており、例年、五月頃にパトロール員を一般募集し、高山植物保護のための環境美化活動、登山道や看板の簡易な補修、ストックキャップ未装着者への注意喚起などを実施しています。

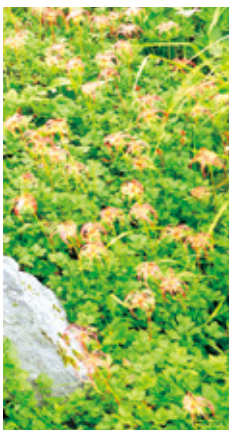
コロナ禍の影響により、今年度

も規模を縮小しての実施となりましたが、立山地区（室堂班（五名））と黒部地区（黒部班（二名））の計七名のパトロール員に約一ヶ月間にわたる活動を実施していただきました。

解団式では、各パトロール員から活動報告があり、登山客に対しての注意喚起の件数などが報告され、軽装で登山する方に声をかけた際の出来事や、より良い啓発活動についての意見などが出されました。

また、活動中には登山客から高山植物の名前を尋ねられたり、登山道の補修について感謝の言葉をいただいたりとコミュニケーションの大切さについても報告されました。

今後も希少な高山植物等を守っていくため、今回出された活動報告や貴重なご意見を次年度以降の活動に活かしてまいります。



チングルマ



文字が消えている看板の補修



黒部地区のパトロールエリア（白岳の山頂から五竜方面）



解団式での記念撮影



グリーンロープの設置作業

ポスターによるマナー向上と自然保護の啓発を実施中

富山森林管理署では、国有林内で無人航空機を飛行される方に向けての事故防止と環境配慮への協力を求めるポスターと、登山をされる方に向けてのストックキャップ装着の協力を求めるポスターを作成し、今年度から立山、宇奈月地区の各施設や山小屋など、利用者の目に留まりやすい場所に掲示していただき、マナーの向上と自然保護活動の重要性をPRしていきます。

近年、登山の際に無人航空機による風景撮影をする入山者が急増し、山小屋に荷物を運搬するヘリコプター等との偶発的な事故や、ライチョウなどの希少種への影響を懸念する声、ストックの鋭角な石突きによる植生や登山道への損傷を危惧する声などが寄せられています。

ポスターをご覧いただき、マナーを守って、これからも北アルプスの大自然を満喫していただきたいと考えています。



立山室堂ターミナルでのポスター掲示



富山署の職員がデザインした2種類の啓発用ポスター

**高山植物等保護対策協議会
中信地区協議会の
パトロール活動**

【中信森林管理署】

高山植物、ライチョウ等の保護などを目的として設置された「高山植物等保護対策協議会中信地区協議会」は、長野県、山岳協会、自然保護団体、国など幅広い会員により運営されており、例年、関係自治体及び関係団体と連携して高山植物等保護の普及啓発と山岳環境の美化活動を行っています。今年度は、天候不良により中止した白馬地区以外の三地区で活動を実施しましたので紹介します。

美ヶ原地区 七月十三日(水)

十三名が参加し、三班に分かれて、それぞれ「王ヶ頭」「思い出の丘」「美しの塔」の周辺でゴミ拾いを行い、入山者に啓発用の高山植物カードを手渡し高山植物の保護等呼びかけました。

王ヶ頭周辺は例年と比べて人の入り込みが多く、にぎわいを見せていました。

上高地地区 七月二十七日(水)

十三名が参加し、不安定な天候の中、「涸沢コース」と「槍沢コース」の二班に分かれて実施しました。

毎年のことながら、上高地地区は比較的に入山者が多く、その分、残念ながらゴミの量も多いです。ザックから落ちたり、休憩時に置き忘れたりしたものとと思われるペットボトルやタオルなどを多く拾い、入山者に高山植物カードを手渡し注意を呼びかけました。

乗鞍地区 八月八日(月)

岐阜県側の飛騨森林管理署等と合同で実施し、四十三名が参加しました。畳平を拠点に、大雪渓や山頂を目指すコース等、五班に分かれて行いました。

平地では、気温三十度を超える晴天日であったにも関わらず、乗鞍岳は雲に包まれ、気温十五度と肌寒い日でした。

「コマクサ」のような夏の高山植物の花の見頃は、早くも終わりがけでしたが、秋の高山植物はこれからといった様子でした。



上高地の沢沿いでのゴミ拾い



美ヶ原の王ヶ頭で行った入山者マナーの啓発



近くでライチョウが見守る乗鞍での活動

コロナ禍での三年目の登山シーズンを迎え、近年のアウトドアブームにより入山者数が増えつつありますが、登山初心者の方も多く、ルールを知らずに規制ロープの中に立ち入り、高山植物を踏んでしまう方もおります。今後パトロールを通して、入山者へのマナー啓発や美化活動を継続して取り組んでいきたいと考えています。



コマクサ

美ヶ原国有林での クリーン活動を実施

【中信森林管理署】

七月十三日、松本市美ヶ原^{うつくしがはら}国有林において、国有林クリーン活動を行いました。

当日は当署職員に加え、長野国有林森林整備協会中信支部及び長野林業土木協会中信支部のご協力をいただき、総勢三十五名での活動となりました。

予定していた活動は、美ヶ原自然保護センター駐車場周辺のゴミ拾いと、セイヨウタンポポの除去でしたが、美ヶ原高原を訪れる観光客のマナーの良さからか、ゴミはほとんど見られず、セイヨウタンポポの除去が主な作業となりました。

約一時間の作業ではありましたが、ゴミ袋四袋分(約二〇^{キログラム})のセイヨウタンポポを除去することができました。外来種の侵入を止めることは難しいですが、今後も除去作業を定期的に実施し、少しでも防げるよう活動していきます。



参加者が集まったの記念撮影



セイヨウタンポポの除去作業

南アルプス 外来植物除去活動を実施

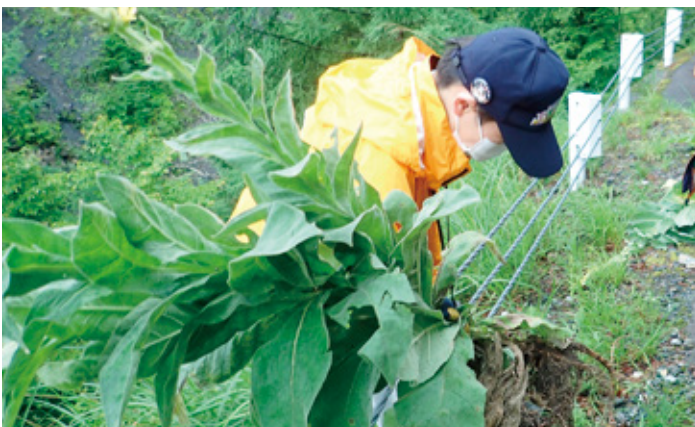
【南信森林管理署】

七月二十七日、ビロードモウズイカやヒメジオオン等の外来植物除去活動を伊那市長谷地区の南アルプス林道沿いで実施しました。

当日は悪天候が見込まれたため、長谷小学校の児童は不参加となり、伊那市、飯田市、伊那市地域おこし協力隊、上伊那地域振興局、信州大学農学部、当署からの総勢二十一名が参加しての活動となりました。

除去作業に先立ち、標高一、七〇〇^{メートル}付近の歌宿^{うたじゆく}にて、信州大学の渡邊修准教授^{わたなべおさむ}から、除去すべき植物について説明を受け、その後、南アルプス林道の玄関口^{くろせきぐち}である戸台大橋^{とだいおほし}へ向けて、林道沿いの外来植物を除去しながら移動していききました。

最も多く除去したヒメジオオンは、花を付けていないものもあり、特定に苦慮しましたが、ノコンギクとの違いを確認しながら、慎重に除去を進めていきました。



ビロードモウズイカの除去を行う職員

ビロードモウズイカは約十年間にわたり除去活動を実施している成果が現れ、数は少なく、背丈も小さいものがほとんどでしたが、丈が一丈を超えるようなものもあり、完全に外来植物を除去することの難しさを実感しました。

今回はトダイハハコやレンゲショウマといった貴重な在来植物も確認され、これらの保護や南アルプスの景観を守るためにも、今後も関係者と連携して外来植物除去活動に取り組んでいきます。



まきた 牧田猟友会長から「くくりワナ」の説明を受ける職員

鳥獣保護及び

狩猟に関する講習会を開催

【南信森林管理署】
なんしん

七月二十日、当署職員のほか、伊那谷総合治山事業所及び木曽森林ふれあい推進センターの職員総勢三十数名が参加し、「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催しました。

ニホンジカによる森林被害は、植栽木の食害により造林や森林整備の実施に支障を及ぼすだけでなく、樹木の剥皮による天然林の劣化や下層植生の食害など、地域全体の森林が持つ公益的機能の発揮に大きな影響を与えています。そのため当署では、職員捕獲をはじめ、くくりワナの貸出や地元猟友会との協定、各種協議会などとの協力、「ついで見回り・通報」の取組を行い、昨年度は一、八五五頭のニホンジカを捕獲しました。

本年度も鳥獣の保護や狩猟に関する知識の向上を図るとともに、獣害対策に専門的な知識を有する職員を育成することを目的に本講

習会を開催しました。

午前中に会議室で行った検討会では、長野県の鳥獣対策専門員を講師に、法令や鳥獣の生態、特性について学んだ後、知識の習得状況を確認するための考査を行いました。

午後からは、手良沢山国有林において、地元伊那市猟友会の四名の会員の方から「平澤式」「笠松式」のくくりワナの説明と設置する場所の選定、設置する際の注意事項、獣がワナに掛かった後の対応等について学び、四班に分かれて実技を行いました。

実際に自分の手でくくりワナを設置した職員からは、「力がいらず簡単に設置できる」「錯誤捕獲により熊がかかった時は、むやみに近寄らないように特に注意しなければならぬ」などの声がありました。

講義や実技で学んだことを活かして、これからも地元猟友会、関係機関、各協議会等と連携して積極的に有害鳥獣被害対策に取り組めます。



オフィシャルサポーター名	支援内容
株式会社 コシブレザービング	木製遊歩道作設の 板材等の提供
長野林業土木協会 北信分会	労力の提供
一般財団法人 日本森林林業振興会 長野支部	木製遊歩道作設・ メンテナンス用の資材の提供
株式会社 八十二銀行	木製遊歩道作設の資材購入等の ための資金の提供

戸隠森林植物園に整備された木製遊歩道

「オフィシャルサポーター」のご支援により木製遊歩道を整備！完成記念式典を開催

【北信森林管理署】
七月二十四日、長野市の戸隠山国有林内にある戸隠森林植物園において、木製遊歩道の完成記念式典が開催されました。

これは、老朽化が進んでいた戸隠森林植物園内の木道等を改修するため、令和元年六月に戸隠大峰自然休養林保護管理協議会とオフィシャルサポーターとの間で「レクリエーションの森の整備・管理及び活用に関する協定」を締結し、オフィシャルサポーターの皆様から木材等の資材や労力、改修費用などをご提供いただきながら進めてきた事業が完了し、七〇六路の木製遊歩道が整備されたことを記念した式典で、関係者全員が出席されました。

式典冒頭、戸隠大峰自然休養林保護管理協議会会長であり、遊歩道を借り受けている長野市の萩原市長から感謝の意が述べられ、続いてオフィシャルサポーターを代

表して長野林業土木協会北信分会会長及び一般財団法人日本森林林業振興会長野支部長からご挨拶をいただき、看板の序幕を行いました。

式典後は、戸隠森林植物園ボランティア会の水上会長のガイドにより、完成した木製遊歩道を周遊しながら喜びを分かち合いました。


これからも多くの方がご来場され、楽しい思い出を作っていただきたいと考えられています。

ご支援、ご尽力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



関係者全員での記念撮影

利用者目線で設備を点検
天生湿原など
合同パトロール実施



【飛騨森林管理署】

七月二十七日、飛騨市河合町に所在する天生県立自然公園内に設置されている歩道や休憩所などの施設の状況等について、公園を管理している天生県立自然公園協議会や飛騨警察署、飛騨消防署などと協力し、合同パトロールを実施しました。

当該地域は、天生国有林の「天生自然観察教育林」に指定されており、天生と木平、二つの湿原を巡る遊歩道と標高一、七四四の初糠山へ至る登山道が整備されていることから、森林浴や日帰り登山を目的に初夏から秋にかけて多くの方が訪れる地域となっています。

パトロールに参加した十八名は、二つの湿原を結ぶ歩道を中心に巡回する組と登山道を中心に点検する組の二手に分かれ、歩道等施設の安全と案内標示板の設置状

況などについて点検を行いました。

遊歩道や登山道については、擬木などを一切使用せず、倒木の枝など現地で調達できる資材を有効活用した階段などにより、しっかりと管理されていましたが、当日は時折雨が降る天気であり、濡れた木の上が滑りやすかったことから「滑り止めの対策をもっとすべきでは」との意見も聞かれました。

また、昨年度よりピクトグラムを入れた案内標示の整備が始められており、新しい標示を見た参加者からは「分かりやすい、早く全域に整備されるといい」などの話が出ていました。

なお、当署では本パトロールに併せ、歩道周辺にある枯立木についても状況確認も行いました。危険性が高いと判断された木を中心に今後伐採などの対策を実施する予定です。

これからも関係機関と協力し、施設を安全に利用していただけるよう努めていきますので、機会があれば是非訪れてみてください。



ピクトグラム(視覚的に意味を伝える絵記号)を入れた案内標示



歩道の状態などを確認



切れない刃物はケガにつながると聞き、真剣に刃物と向き合う若手職員たち

刃物研磨講習会を実施

【南信森林管理署】



八月二日、今年四月に採用された職員二名を含む四名の若手職員を対象に刃物の研磨講習会を実施しました。

講師であるベテラン職員から刃物や砥石の持ち方、作業姿勢などを教わり、実際に自分が使う鉋を研ぎました。初めての作業に苦戦している職員もいましたが、最後の仕上げを行い、満足した様子で研磨した刃先を眺めており、暑さの中で汗をかきながら取り組んだ姿に成長を感じられた講習会でした。

**未来に向けて
夏期インターンシップを実施**

【木曾森林管理署】

八月二日から四日まで、当署管内の国有林及び民間木材市場等において、長野県林業大学校から推薦された二名の学生を対象にインターンシップを実施しました。

本取組は、当署の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としています。今回は、新型コロナウイルス感染症の第七波が全国的に拡大している状況を踏まえ、受入対象者を木曾郡内の学生に限定し、また、屋外での実務を多く取り入れて行いました。

職場体験の内容は、丸太の生産や販売などの木材供給、伐採した跡地を再び森林にするための造林、獣害対策、赤沢あかざわ自然休養林での遊歩道の整備、国有林の境界管理、治山や林道事業、ウェブ研修の体験、若手職員との交流等、多岐にわたりました。

学生からは、「森林官や担当職員等との体験を通じて、森林管理署や民間事業体の様々な仕事について理解を深めることができた。また、体験中に聞かせていただいた話や若手職員との交流の時間はとても有意義であり、貴重な財産になる。」との感想が寄せられました。

三日間という短い期間ではありましたが、当署職員それぞれの熱い思いが伝わり、職業選択の参考として、林業関係への就業に結びつくことを期待しています。



遊歩道の整備について学ぶ学生

**令和4年度
教職員森林・林業学習会を開催**

【木曾森林ふれあい推進センター】

八月三日、上松町小川入国有林あげまつまちおがわいりにおいて、木曾郡内の小中学校の教職員を対象に森林・林業学習会を開催しました。

この学習会は、森林・林業の役割と森林環境教育についての認識を高め、学校教育の中に積極的に取り入れていただくことを目的に、平成十四年度から長野県との共催により実施しています。

今年度は小学校の教職員七名が参加され、当センター職員が赤沢自然休養林内の学術研究路を主体に案内しました。

始めに、関係者以外の立ち入りを制限している場所にある「十六世紀から十七世紀に伐採されたと推測される木曾ヒノキの伐根」を見学していただき、昨年度に酸素同位体解析を行い、木曾ヒノキ天然林の林分構造の解明につながる調査をしていることなどを説明しました。

先生方は拡大鏡で伐採面の年輪

を数えるなど、興味を持たれた様子でした。

その後、木曾五木みぞまほじめきが生育する森林や昭和六十年に御杣始祭みぞまほじめさいが開催された場所も見ていただきました。

先生方からは、「木曾ヒノキ等の大樹が生育する天然林に圧倒された」普段立ち入ることができない場所を見学し、子供たちへの教育に大変参考になった」との感想をいただきました。



関係者以外では初めて案内した木曾ヒノキの伐根

高瀬溪谷フェスティバル

【中信森林管理署】

七月三十日、「森と湖に親しむ旬間」に合わせて開催された大町ダムの見学イベントである高瀬溪谷フェスティバルに参加しました。会場では「ダム内部見学」「スタンプラリー」などが体験でき、中、当署では木を使った工作と押し葉のはがき作りの体験コーナーを担当しました。



親子での作品作り

三年ぶりの開催であり、来場者が来てくれるのか心配でしたが、開催時刻になると地元の親子連れなど、徐々に人が集まり、作品作りに没頭されている方もいました。来年度も多くの方々にご来場いただけることを願っています。

なかつがわ山の日「山DAY」

【東濃森林管理署】

八月十一日（山の日）、当署会場及び隣接する中津川市有地と苗木地区・加子母地区のサテライト会場において、第五回なかつがわ山の日「山DAY」を開催しました。

三年ぶりとなった「山DAY」は、中津川市内の子ども達に中津川の山で育った木を知り、実際に木を使ったり、山の中を散策したり、高性能林業機械を見学するなど、身体で山を感じる体験型イベントで、中津川市、岐阜県、当署が主催し、市内の森林組合、建築協同組合、まちづくり推進協議会等のほか、恵那農業高等学校の協力を得て行っています。

当日、当署会場には事前申込みされた一歳から十三歳までの子ども達と保護者、二二五名が来場され、木工教室、ネイチャーゲーム、高性能林業機械シミュレーター、裏木曾古事の森ウォーキング、森の健康診断など、様々な体験に挑戦してもらいました。



2代目大ヒノキ見学（ウォーキング参加者）

当署の職員は「木工教室」のブースでミニイス作り体験をサポートし、「難しかったけど、かわいいイスができた」と参加した方々に喜んでいただきました。また、高性能林業機械シミュレーターの参加者からは「今の林業は、すごい機械を使っているんですね」「楽しかった！本物も運転してみたい」などの感想がありました。



ミニイス作り体験

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【北信森林管理署

黒姫森林事務所】

黒姫山 澤田 康平

黒姫森林事務所は、長野県上水内郡信濃町に所在し、森林官、行政専門員、非常勤職員二名の計四名体制となっております。



黒姫山からの眺望（信濃町一帯と野尻湖）

管轄する国有林は、千曲川下流森林計画区の霊仙寺山国有林、黒姫山国有林など、約六、七〇〇の面積を有し、そのうちの四四割はカラマツ、スギを主体とした人工林で残りは天然林などとなっております。

国有林から生み出される水は、信濃町の上水道や農業用水として稲作やトウモロコシ、そば栽培などに利用されており、数ある農産物の中でも特にトウモロコシのおいしさは有名で、収穫時期には直売所に行列ができるほどの名産品であり、国有林は地域の重要な水源地となっております。また、「黒姫高原スノーパーク」や「いづなリゾートスキー場」、「苗名滝」など、地域の観光資源となる施設等も国有林内に多くあり、四季を通して来訪者の方々にお楽しみいただいています。

当事務所の業務は、用水路やスキー場、遊歩道等の貸付地の確認、



苗名滝

境界管理、間伐や造林事業の監督などを行っています。

国有林が黒姫山などの裾野に広がっているため、比較的林地傾斜が緩く、ハーベスター等の高性能林業機械を活用した木材生産が活発に行われています。そして、伐採跡地では地拵等の造林事業を実施しており、請負事業者の方とともに車両系建設機械やクラッシャー地拵機を使用した地拵を試験導入するなど、低コスト造林などの新しい林業に向けた取組も行っています。



事業者への安全指導（著者左側）

■未来の担い手へのメッセージ
現在収穫期を迎えている森林は、先人が大切に植えて育ててきた森林であり、長い年月が必要な森林管理という仕事は、次世代へつなげていく大変有意義な仕事だと感じています。
国有林の広大なフィールドでは様々な経験ができるため、興味のある方は是非一緒に働きましょう。



シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「命を活用し 皮革製品に」



株式会社 メルセン
代表取締役
中川 武人

■自己紹介

長野県下伊那郡松川町で生まれ育ち、今年で五十年間、皮革業界にかかわりを持ち、現在は皮革産業が後世に続くよう、後継者の育成にも取り組んでいます。

■活動内容

株式会社メルセンは、明治時代よりの皮革製造業者(タンナー)を親会社に持ち、技術の研鑽を重ね、現在の皮革製造及び商品加工を産業としてきました。

「皮」は、そのままでは利用することができません。「皮」を人間が利用できる「革」へと鞣すことが皮革製造業者の仕事です。当社では、鞣した牛革を用いた家具用革・自動車用革の製造を主業務として行っています。

また、牛以外にもワニやサメ、ダチョウ(オーストリッチ)、象など国際法にて利用が認められている「皮」を世界各地から取り寄せ、「革」へと鞣してきました。

宮城県で水揚げされたサメの皮は、以前はゴミとして処分されていました。以前は、皮革業界もサステイナブルな視点を持ち、捕獲・駆除した動物を有効活用する取組が必要だと感じ、サメ革の商品開発に取り組んできました。

そんな中、地元である長野県では、鹿による森林被害・農林業被害を減らすため、年間三万頭以上

の鹿が捕獲されており、その大半が埋設・焼却処分されていることを知り、鹿も活用しなければならぬと感じると共に、森林の保全に役立つと信じ、鹿皮の製革及びその革を使った商品製造に取り掛かりました。

現在は、長野県を中心に年間五千枚の鹿皮を鞣し、財布やバッグ等に加工しています。

■メッセージ

野生の鹿皮は個体差があり、安定した品質で製造することが難しく、鮮度、傷等で歩留も悪く、採算面では厳しい革ですが、柔らかく暖かい手触りを持ち、良質な商品を生産することが出来ます。



牛革より軽くなめらかで、
表面がきめ細かい鹿革

素材の良さを生かした優れた商品を作るよう努力してまいりますので、鹿革商品を手に取っていただき、鹿革のすばらしさを感じ取っていただければと思います。



一つひとつ丁寧に作られた鹿革商品

○連絡先

T 395-0074
長野県飯田市松川町2211
TEL 0265-5212711
<https://melsen.jp/>



大規模噴火からよみがえった天然林

あさまやま
浅間山

生物群集保護林

設定目的

浅間山（二、五六八㍎）は現在も活発な火山活動を続けており、江戸時代の天明大噴火（一七八三年）では三日間にわたる噴火で大災害が発生しました。

その後の時間の経過とともに再生したカラマツ、アカマツ、ウラジロモミ、ダケカンバ等からなる天然林とともに、林内にはレンゲツツジ、スズラン、ヤナギラン等の高山植物群落が見られます。

浅間山の火山活動による特異な地理・地形に生育するこれらの植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

典型的な内陸性気候で、夏季は昼夜の気温差が大きく、冬季は寒さが厳しい環境に置かれています。

本保護林とその周辺には溶岩流跡など、火山活動によって形成された多種多様な地形が見られます。

山麓の森林には、天然記念物に指定されているイヌワシやヤマネ、カモシカをはじめ、様々な野生動物が生息しています。

シリーズ

中部の保護林(第17回)

所在地
長野県小諸市、北佐久郡



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第17回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「測量」

昭和三十年代初め頃の測量風景
(現在の愛知森林管理事務所管内)



森林を管理するにせよ林業を行うにせよ、その土地の状況が分からなくては何も始まりません。このため、測量を行い管理経営の計画を立てることは昔から最優先事項の一つでした。

明治時代の頃は山岳地帯の近代的な地図の製作は進んでおらず、林野庁の前身である帝

室林野局や農商務省山林局でも自ら測量を行う必要がありました。このため、日本アルプスの主要な山岳の中には名も知られていない国有林の測量官によって初登頂されたと考えられているものが幾つもあります。

測量においては登山道のような整備された場所を歩けるとは限らず、測量基準点を確保するために危険なルートを進まなければならぬこともしばしばありました。特に今と違い重量のあるかさばった機材を使っていた時代の測量は、山の中で長い期間、野営をしながら行う必要もあり、命の危険もある大変過酷なものであったと伝わっています。

昭和三十年代初め頃、測量作業のための移動風景
(旧名古屋営林局管内)



現代では航空写真の利用、レーザー測量、GPSをはじめとする人工衛星からの情報など様々な技術が地理情報の分析に使われるようになりました。測量等の成果は経営計画の策定、土地の境界の確認、治山・林道などの土木工事の設計、調査研究など多くの場面で利用されていますが、新規の測量は専門の企業に委託することが多くなっています。

昭和四十年代頃の測量風景
(旧名古屋営林局管内)



ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



国有林モニターのご紹介



さかきばら みなこ
榎原美奈子
(長野県)

◇自己PR：(趣味や特技など)

衣食鳥(野鳥が好きです)に
関すること、温泉&サウナ巡り

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

以前、根羽村森林組合の若い
女性の木こりのお仕事を取材さ
せてもらったことがあります。

山々はただ自然にそこにある
ように思っていました。適切
に人が手を入れて育てていくこ
とで、先々まで繋いでいくこと
ができるのだ、とその時初めて

知りました。

長野県は、山や森とともにあ
る地域です。この美しい景色を
守り継いでいくためにどんな取
り組みがなされているのか、ま
たどんな問題を抱えているのか
知りたく、また国有林を訪れて
この目で見てみたいと思います、応
募に至りました。

◇国有林に期待すること

我が家の近くには、戸隠森林
植物園を有する素晴らしい国有
林があります。

鳥たちの声、森の香り、どの
季節に訪れても鮮やかな自然の
風景があり、全身で森を感じる
ことのできる素晴らしい場所で
す。

探鳥に訪れるなかで、温暖化
の影響か野鳥の数が年々減少傾
向にあると聞きました。自然、
動植物を守るために国有林にで
きることは少なくないと感じ、
活動に期待しています。

(写真：大鹿歌舞伎でお馴染みの
長野県大鹿村にて)



高山植物等保護。パトロールで
出会ったライチョウたち

デジ森 テーマ「黄」



10. 「紅葉と森林鉄道」
(木曾署管内)

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等
の投稿は、migoro@maff.go.jp
まで電子メールでお送りください。)

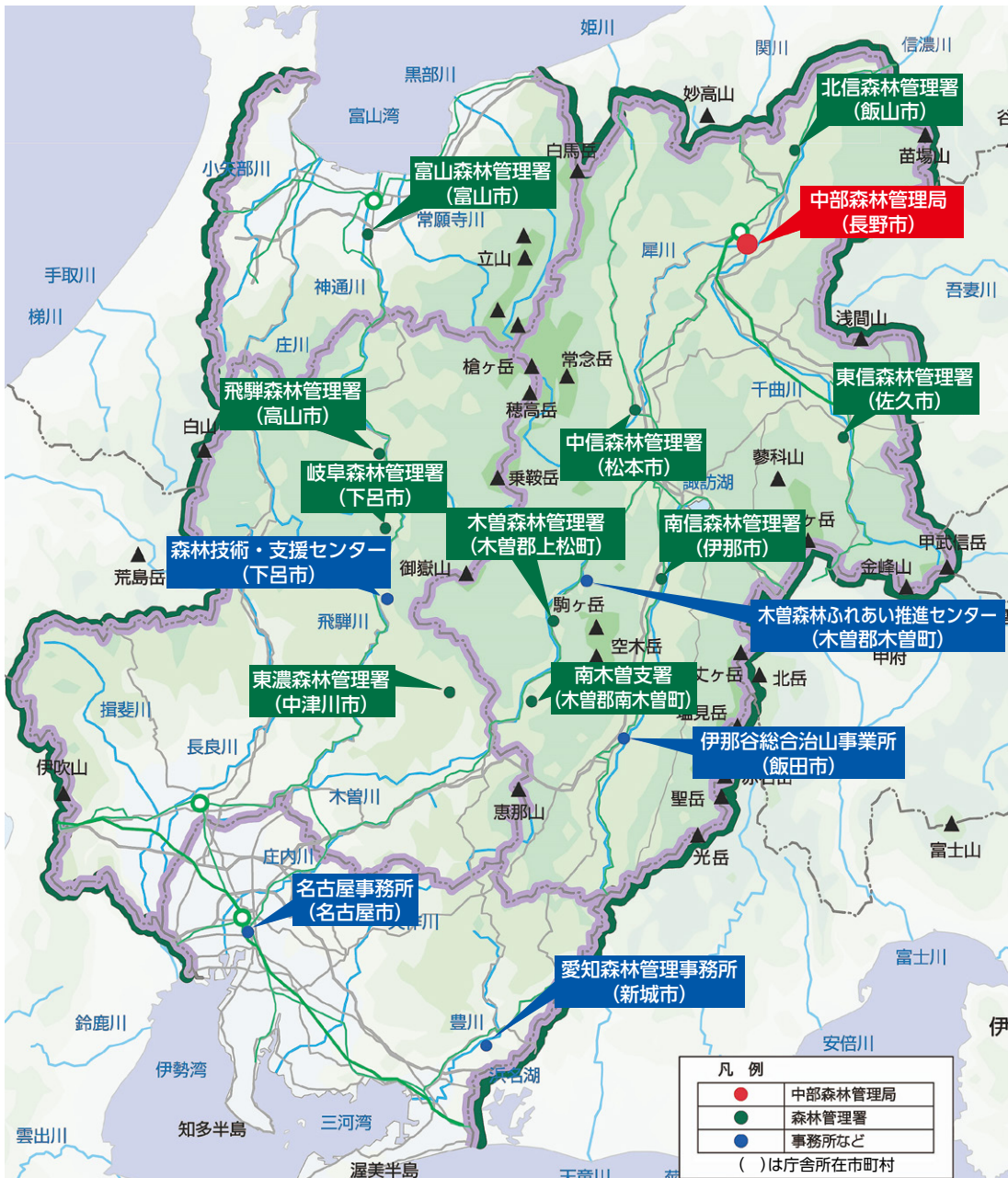
秋ですな！ 梨、ぶどう、栗、お米、きのこ、柿、りんごなど、次々
に収穫時期を迎えます。旬のものを食べると心身ともに元気になるので、
今年も直売所に通り、実りに感謝しながら味わいたいです！

そして、いつでも山に登れるよう、日々の適度な運動にも取り組んで
いきたいです(^-^)

紅葉のシーズンを迎えた各地の国有林では、美しい風景との出会いや、
心に残る体験が味わえると思います。また、中部森林管理局のホーム
ページでは、北アルプス、乗鞍などの山岳地域で活躍する「グリーン・
サポート・スタッフ」の活動を紹介しています。高山植物の情報や素
敵な風景写真もありますので、こちらでもお楽しみくだ
さい。



グリーン・サポート・スタッフの活動については、
左のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ



広報
「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。